

令和2年度愛媛県生活習慣病予防協議会の開催結果

- 1 開催日時 令和2年10月6日(火)19:00~20:30
- 2 開催場所 愛媛県医師会館4階会議室
- 3 出席者 委員 29名(欠席8名)
事務局 14名
- 4 協議会の内容
 - (1) 新委員紹介
前年度協議会以降、新たに就任した委員5名と参考人1名を紹介。
 - (2) 会長選出
委員互選により、愛媛県医師会会長 村上委員が会長に選出された。
 - (3) 会長職務代理者及び部会員の指名
会長から、日浅委員を会長職務代理者に指名した。また、各部会員を指名した。
 - (4) 議 事
 - ① 令和元年度事業報告について
事務局から、令和元年度に実施した協議会、講習会、消化器がん部会実地調査について報告し、了承を得られた。
 - ② 令和2年度事業計画について
事務局から、令和2年度の事業計画として、講習会は循環器等疾患部会、がん登録部会を除く6部会において実施すること、実地調査は消化器がん部会において実施することを説明し、了承を得られた。
 - ③ がん検診実施状況等について
事務局から、令和元年度に各資料で実施された各種がん検診の実施状況の概要を説明した。
 - ④ その他の議題として、今後の本県のがん検診についての検討課題について
事務局から、国の指針以外のがん検診における国の動向を踏まえた本協議会としての対応及び市町のがん検診結果報告様式について、各部会で議論いただくよう説明した。
- 5 各部会の内容(協議会終了後開催。がん登録部会は部会長及び副部会長の選出のみ)
 - (1) 各部会の部会長の選任について
各部会において、次のとおり選出された。

| 部会名 | 部会長 | 副部会長 |
|----------|-----------|-----------|
| 消化器がん部会 | 二宮 朋之(新任) | 藏原 晃一(新任) |
| 子宮がん部会 | 横山 幹文(再任) | 廣瀬 浩美(再任) |
| 肺がん部会 | 野上 尚之(新任) | 森高 智典(再任) |
| 乳がん部会 | 佐川 庸(再任) | 高橋 三奈(再任) |
| 前立腺がん部会 | 雑賀 隆史(再任) | 橋根 勝義(再任) |
| 肝がん部会 | 日浅 陽一(再任) | 大野 尚文(再任) |
| 循環器疾患等部会 | 斉藤 功(再任) | 村上 博(再任) |
| がん登録部会 | 日浅 陽一(新任) | 雑賀 隆史(新任) |

(2) 検診機関実地調査について

消化器がん部会において、検診機関を対象とした実施調査を以下のとおり実施することとなった。

| 部会名 | 実施時期 | 調査対象 |
|-------|---------------------|-----------------------------|
| 肝がん部会 | 令和2年11月～ 令和3年2月頃 | 愛媛県総合保健協会 愛媛県厚生農業協同組合連合会 |

(3) 生活習慣病予防対策講習会について

講習会を愛媛県医師会へ委託して実施するにあたり、各部会において次のとおり提案があった。(詳細は、別途相談のうえ決定する。)

| 部会名 | 時期・内容等 |
|---------|--|
| 消化器がん部会 | 令和3年2月～3月に実施。詳細は別途協議。 |
| 子宮がん部会 | 詳細は別途協議。 |
| 肺がん部会 | 令和3年1月～3月に望月部会長による胸部CT検査の被ばくについての研究結果について講演。日程は別途調整。 |
| 乳がん部会 | 令和3年2月～3月に実施。詳細は別途協議。 |
| 前立腺がん部会 | 令和3年3月13日の泌尿器科医会の会議と併せて実施予定。 |
| 肝がん部会 | 12月～1月にオンラインでの開催を検討 |

(4) 検診結果・事業評価その他の事項について

各部会において、検診結果・事業評価その他の事項について、次のとおり意見があった。

| 部会 | 委員の主な意見・協議事項等 |
|---------|--|
| 消化器がん部会 | <p>1 令和元年度事業</p> <p>【胃がん検診、大腸がん検診結果】</p> <ul style="list-style-type: none">・平成30年度から受診率が下がっているが、国も同様か。 <p>→国では、28年度以降の地域保健・健康増進事業報告からがん検診受診率の対象者については、市町村の住民全体となっており、当協議会は30年度から住民全体を対象者とする改正を行った。</p> <ul style="list-style-type: none">・胃内視鏡検査を実施している市町は松山市のみか。宇和島市は実施していないのか。 <p>→実績報告がある市町は、松山市のみである。</p> <ul style="list-style-type: none">・胃内視鏡検査の2次読影は松山赤十字病院と県立中央病院で分担して行っているが、松山市のような県庁所在地クラスの都市でなければ、体制が整っていないのが現状。 <p>【事業評価のためのチェックリスト】</p> <ul style="list-style-type: none">・市町別のチェックリストで、「×」が付いている項目は、毎年「×」が続いているのか。 <p>→毎年「×」が続いている項目が多いと思う。「○」になるよう県が指導、助言する必要があると考えている。</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>2 令和2年度事業</p> <p>【講習会の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今冬、新型コロナウイルス感染症が拡大した場合は中止せざるを得ないだろう。その場合、精密検査実施医療機関の届出要件である講習会の参加は、免除してもよいだろう。 ・講習会の講師については、昨年度中止になった講習会の講師の方に、水上前部会長が引き続き依頼をいただいている。実施日程は未定だが、水上前部会長と連絡をとり、調整する。 ・実施方法だが、講師は県外で講演いただき、それを医師会館のホールで放映（リアルタイム又は録画）することはできるのではないか。ただし、密を避けるために、複数回に分けたり、会場を分散する必要があるかもしれない。 ・実施時期も3月ではなく、前倒しで実施することも検討する必要がある。→実施方法や日程については、委託先の県医師会を通じ、改めて御相談させていただきたい。 <p>【その他：大腸CT検査について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大腸がんの精密検査について情報提供だが、現在、精密検査の実施方法として、全大腸内視鏡検査が第一選択であり、困難な場合はS状結腸内視鏡検査及び注腸エックス線検査の併用となっているが、日本消化器がん検診学会において、全大腸内視鏡検査が困難な場合、大腸CT検査を導入しようとする動きがある。 ・大腸CT検査の実施に当たり、大腸CT検査技師認定制度や精度管理の基準などが作られるようだが、今後どのようになるかは未定。 |
| <p>子宮がん部会</p> | <p>1 令和元年度事業について</p> <p>【子宮がん検診結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精検受診率が84.6%（H29年度）から91.1%（H30年度）に上昇した理由は何かあるのか。 <p>→H30年度から妊婦健診を含まない数値になったため、検査の対象が違うことや市町の受診勧奨の成果が考えられる。</p> <p>【事業評価のためのチェックリスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストの項目において、愛媛県が全国平均を下回ってしまうのは、市町がチェックリストをつけているからではないか。愛媛県においては、検診機関との精度管理等に関するやりとりは県が主で行っているイメージがあり、実際にそうであるならば市町の実施率が低くなることは仕方がないことであるため、この結果について気にしなくてもいいのでは。 ・当市では、検診機関へ精度管理評価のフィードバックはできていない。 ・そもそも部会資料に添付されている検診結果や事業評価チェックリスト等の統計データは検診機関や医療機関へフィードバックはされているのか。先生方に知ってもらうことが大切であるため、データを各機関（特に婦人科を有する医療機関）へお知らせする、もしくは講習会の際に事 |

務局からデータについて報告してほしい。

- ・医療機関等への情報還元が県全体で出来ていない。どんなフィードバックの方法があるか、還元の仕方も含めて検討しながら、ここは改善すべき。
 - ・個別の結果ではなく、この結果（統計）を各検診実施機関に返す予定はあるのか。この部会で用いるのみではなく、実施機関に還元してほしい。
- 委託先である県医師会から、医療機関向けに講習会通知をする際に統計資料を添付予定

2 令和2年度事業

【講習会について】

- ・昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっている。最近はどの研修もオンラインで実施しているため、従来通りの方法で実施するには勇気がいる。開催側として感染対策を徹底する必要がある。（参加者数の上限を設定する、事前に出席をとる、適切な距離が確保できる会場とする、マスクの着用・検温を徹底する等）コロナの感染状況によっては免除にしてもよいと思う。
 - ・講師は前回お願いしようとしていた竹原先生に再度お願いをしてみてもどうかと考えている。また、講習会内で事務局から統計データを報告することを検討してほしい。
 - ・例年、講習会の案内はどちらへ送付しているのか。精密検査実施医療機関の医師はこの講習会は必ず受講をしないといけないのか。例年は医師よりも技師のほうが多く参加しているイメージがあるが…。
- 県医師会から精密検査実施医療機関に対して通知している。講習会の受講が精密検査実施医療機関の届出の要件である。一昨年度の実績では、参加者81名のうち技師が約30名出席していた。

3 子宮頸がん検診ガイドラインについて

- ・ガイドラインが更新され、HPV 検査単独法が推奨されたが、まだ国内でもどのように経過観察をしていくか等の見解が出ていないことから、対策型健診で採用することは時期尚早だろう。そのため、引き続き細胞診で良いと考える。
 - ・ガイドラインで推奨されたことと、行政の検診事業で導入するかどうかはまた別の話と考える。
 - ・今回のガイドラインの更新内容が国の指針に盛り込まれるのはいつ頃か。
→時期は未定
 - ・検診を毎年実施しているところと、国の指針通り2年に1回実施しているところがあり、県内の市町によってばらつきがある。毎年受ける必要はないため、国が推奨している方法を県から市町へ再度情報提供する必要があるのではないか。
- きっかけがないと従来の方法を変えるタイミングがなかなかない。
- ・今回ガイドラインが更新されたことを機に、ガイドラインとともに全体資料の41ページを市町へ情報提供し、市町に実施方法について考えても

| | |
|--------------|--|
| | <p>らう機会としてはどうか。</p> <p>→市町へは情報提供予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年実施するほうがいいのか、コール・リコールをきちんと実施して 2 年に 1 回とするのか、市町に考えてもらう必要があるだろう。 |
| <p>肺がん部会</p> | <p>1 令和元年度事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肺がん検診都道府県プロセス指標値の集団検診受診者の割合 93.6%について、他県に比べて愛媛は高いが、職場検診も合わせての割合なのか。分母は何か。 <p>→職域検診を除く市町で実施しているもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今治市において、CT 検査の受診者数が 2,434 人と他の市町に比べて多いのはなぜか。 <p>→今治市はデジタル肺がん検診導入当時から、積極的に CT 検診を実施しており、検診日程における CT 検診の配置も優先して行われている。現在でも、旧今治市における半分の日程で配車、島嶼部ではほとんど全日程で配車している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・X 線を取ったあと、念のため CT を取ると、初期のがんが見つかることが結構ある。低線量になっているので悪くはない。 ・CT は悪いわけではない。市町によって検診の案内の仕方や自己負担は異なるのか。今治市がなぜ多いのか知りたい。 ・肺がん検診を住民にどのように案内しているのか。 <p>→砥部町では、前年度末に全世帯に検診の案内を行い、希望を出してもらい、翌年度希望の検診について個別に通知する。また、未受診者への受診勧奨通知も行う。CT は費用が大体 8,000 円位なので、半額の 4,000 を自己負担としている。CR より CT で受けたいという人が多い。毎年の方もいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が自然にこれだけ CT を受診しているとは思えず、何か広報活動で CT を勧めているのではないか。また分かれば教えてほしい。毎年でなくても隔年でも CT ができるとよい。 <p>【健康増進法改正の影響について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考として、今病院での禁煙外来はどうか。行政的には健康増進法の改正で厳しくなっているが、病院の方では、受診者が増えたなど変化はあるか。 <p>→以前から施設は敷地内禁煙であり、禁煙外来も行っている。術前の患者の外来は多くなった。</p> <p>2 令和 2 年度事業</p> <p>○講習会の内容及び日程について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度新型コロナウイルスの予防のため中止とされたが、テーマは 1 年で大きく変わらないため、昨年度予定していた研修内容を今年度実施してはどうか。 ・講師を望月先生にお願いする方向で、望月先生に連絡を取りたい。時期は年度内の 1～3 月で先生の日程を確認 |

| | |
|-------|---|
| | <p>→事務局から部会長へ連絡済</p> <p>昨年度予定していた講習会内容</p> <p>【講師】望月 輝一 部会長</p> <p>【内容】検診の将来像 ※胸部CT検査の被ばく（線量低下とAIの応用）についての研究結果を講演</p> <p>【日程】1月～3月の土曜日、15時から</p> |
| 乳がん部会 | <p>1 令和元年度事業について</p> <p>【乳がん検診結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減により受診者数が減っているとしても、乳がんだけががん発見数が極端に減少しているため分析をお願いしたい。(H27:100名→H30:54人) <p>→市町や検診機関へ調査したものの、がん発見者数が減少している明確な結果は得られなかったため、次年度の協議会までに内容を精査のうえ回答したいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H25 から経年でみてはどうか。無料クーポン打ち切りも関係しているかもしれない。 ・受診率の低い今治市と四国中央市の要因はいかがか。 <p>→保健所を通じて市に確認したところ、ほかの市町並みに取り組んでおり要因ははっきりしない。今治市はほかのがん検診受診率も低い。もともと検診習慣の風土も低く、合併前の旧町に比べて旧今治市の受診率が低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態を把握するために職域を含めた調査が必要ではないか。 <p>→過去に県が調査した結果では国民生活基礎調査の受診率とあまり変わらなかった。市独自で調査できるかどうかは確認が必要。</p> <p>【事業評価のためのチェックリストについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国より遵守率の低い項目について、課題のある検診機関（医療機関）に改善策をフィードバックできていないのは問題である。 ・都道府県別プロセス指標値について、愛媛県は集団検診受診者の割合が86.1%と全国に比べて極端に高い。 ・分母と分子を示していただくとわかりやすい。 <p>→40-69歳について、分母が26,113人に対し分子が22,477人</p> <p>【乳がん検診結果について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精検受診率が大事。がん発見率はどのがんについても低い、リピーター受診する人が多いほど低くなるのではないかと。受診率がなぜ低いのかについて、現状分析と、検診受診率を上げる方策を考えないといけない。 ・県のがんに関する研修会などで市町担当者が集まる機会はあるが、受診率をテーマに協議まではできていない。 ・何かの折に検診団体や、市町からの情報を集めて検討してはどうか。 <p>【事業評価のためのチェックリストについて】</p> |

| | |
|---------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・個別検診の要精検率が高いが、個別検診はダブルチェックが難しい状況なので、精検に回りやすくなっているのではないか。集団に比べ個別は非常に少ないので、このような結果になるのか。 <p>2 令和2年度事業 講習会の内容開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの状況にもよるが、なるべく2～3月に実施する方向で、内容については高橋先生（副部会長）と相談し、年内には計画して報告する。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳がん検診について、75歳以上の後期高齢者も受け入れているのか。市町別の年齢に応じた対応が知りたい。 <p>→一般的な広報では年齢上限は設けていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に県が職域を含めて実態調査した結果資料を見せていただきたい。 <p>→H25年のがん検診実態調査結果概要を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会資料P36の松山市胃がん受診率19.2%（男女計）について、男性7.9%女性9.0%を足しても合わないため数値確認をお願いします。 <p>→19.2→8.5の誤り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体会資料P33の年齢階層別受診率について、実数も知りたい。 <p>→令和元年度のデータを提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん登録部会は本協議会で行う必要があるのか。がん登録は四国がんセンターが中心となって専門的に行っており、各部会とがん登録は別物として考えるべきである。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受診率の低い今治市、四国中央市については、なかなか難しいと思うが分析していくことが必要 |
| 前立腺がん部会 | <p>1 令和元年度事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八幡浜市について、毎年、69歳までの上限を設けていることについてふさわしくないと意見をしているが、事務局から指摘はしているのか。 <p>→直接的な指摘はしていないが、部会で出た意見等についてはそれぞれの市町にお伝えしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の実施状況を見ても70歳以上の要精検率が高い。 ・医療技術の進歩もあり、最近では80歳代を超えても手術をちゃんと受けようという人も増えている。 ・70歳以上の方のがんを見逃してしまうので、八幡浜市へ事務局の方からもう一度指摘してほしい。 <p>→部会において出た意見を八幡浜市へ伝達する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診の実施状況について、総合保健協会と厚生連の報告の仕方に違いがある。実態に近いほうに整理できるなら整理してほしい。（「疑いを含む」という数が多いので実態が見えてこない。） <p>→総合保健協会に集計の仕方、数値の出し方について確認を取り、整理で</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>きるようであればそうしたい。</p> <p>2 令和2年度事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年講習会は泌尿器科学会のある日に行っている。年二回の学会のうち、第1回は先日オンラインで行われた。第2回は令和3年3月13日予定なので、おそらくはその日になるだろうが、雑賀委員が毎年企画を行っていたので事務局と雑賀委員で協議の上決めてほしい。 <p>→委託先の県医師会を通じて雑賀委員と協議の上、内容等決まったらお知らせする。</p> |
| 肝がん部会 | <p>1 令和元年度事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次肝炎対策推進計画における指標の現状、肝炎ウイルス検診及び検査（健康増進事業における市町実施分、特定感染症検査等事業における松山市実施分、愛媛県実施分）の実績について報告した。 <p>（意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松野町のC型肝炎ウイルス検査陽性者率が高くなっている理由は。 <p>→令和元年度のB型肝炎ウイルス検査陽性者率が高い上島町と同様に、分母である町の人口が少ないため、陽性者が一人でも増えると率が高くなるのではないか。</p> <p>2 令和2年度事業等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝炎医療コーディネーター養成講習会及び連携会議の予定、出張型肝炎ウイルス検査の実施及び計画、愛媛県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業及び肝炎治療特別促進事業に係る医療費助成審査件数について説明した。 <p>（意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝炎医療コーディネーター養成講習会及び連携会議については、愛媛大学医学部附属病院 徳本医師を中心に、オンラインでの開催を検討中。 ・肝炎治療特別促進事業に係る医療費助成について、不承認が5件と多いが、理由はこういったものか。 <p>→がん化学療法中におけるウイルス再活性化予防のための核酸アナログ治療が行われる事例で、特に香川県や高知県の医師による申請が多かったため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肝炎治療特別促進事業に係る医療費助成においてC型非代償性肝硬変の治療薬であるエプクルーサの申請件数が想定したよりも少ない。 <p>3 社会福祉法人石川記念会H I T O病院の専門医療機関の指定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人石川記念会 H I T O病院から専門医療機関として指定してほしい旨の申立書の提出があり、当会議で協議したところ特に異議はなかった。 <p>4 その他協議事項</p> <p>①扁平苔癬の疾患について周知を図り、肝臓専門医の受診を促すための啓発資材作成については、歯科との連携を行うことは重要で、ぜひお願い</p> |

| | |
|----------|---|
| | <p>したいとのことであった。</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・扁平苔癬は内科医が診察してもほとんど分からない。歯科医の診察により、該当する患者は積極的に肝臓専門医へ紹介してほしい。 <p>②肝炎ウイルス陽性者フォローアップ事業の要領の一部改正について報告した。</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度実施予定の肝がん部会担当の検診機関実地調査については、インフルエンザが流行しないうちに実施することで、事務局が日程の調整を行う。 ○今年度の肝がん予防対策講習会については、12～1月にオンラインでの開催を検討することとし、広い場所を確保する必要があることから、会場使用料の提供をお願いしたい。 <p>→前向きに検討する旨回答。</p> |
| 循環器疾患等部会 | <p>循環器病に関する産官学連携協定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患部会と産官学連携協定との関係はどうか。 <p>→国の計画が県に通知されて、協議会の設置等を検討する。今後、県計画を作成する中で、予防啓発の項目が入ると今回の産官学連携プロジェクトも生きてくる。現段階では、当部会と国計画との関連はない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心不全に係る分析成果を当部会で検討するイメージか。 <p>→国の計画が通知され、県計画の策定時に相談させてもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカや日本での研究結果では、死亡統計上の心不全とレセプト上の心不全は互いに交差しているため、取扱いに注意が必要である。 ・心不全研究にはDPCや治療薬を用いると良いのではないか。 ・虚血性や脳卒中を原因とする心不全死亡は、全体の2割程度という印象。残りの8割は原因が分かっていないことが現状。自宅や精神科領域では心不全死亡が多い。心不全は社会的背景も考慮することが必要である。 ・法律ができて、循環器病患者の登録制度はできる予定か。 <p>→国の具体的な動きはない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レセプトデータ研究については1年や2年では成果が見えにくいと思う。 ・以前、嘱託医をしていた経験では、事件性がないと心不全死亡に該当する事例もあった。社会的に独居高齢者が増えており、看取りがなく、死後数日経過している事例もある。 ・高血圧について、県民全体の平均血圧を1、2下げるのは至難の技 ・フレイルと健康寿命など研究成果はあるか。 <p>→外出など動けるかどうかは大きいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レセプトデータ分析に造詣の深い医師を中心に、愛媛県全体で心不全の原因などを研究すると聞いている。 ・心不全死亡は、死亡診断書の影響もあるかもしれないが、県のビッグデータ分析事業では健診データから高血圧が課題と認識している。 |